

2021年4月1日

ご参加の皆様方

第32回日本臨床微生物学会総会・学術集会
総会長 三澤成毅
(順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床検査部)
副総会長 細川直登
(亀田総合病院 感染症科)



第32回日本臨床微生物学会総会・学術集会 終了の御礼

謹啓 春寒の候、皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

第32回日本臨床微生物学会総会・学術集会は、当初の予定から1ヶ月延長し3月31日で全プログラムを終了いたしました。

無事に終わることができましたのは、ひとえに皆様のご協力とご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。ご講演いただきました先生方、座長の先生方、合同企画にご協力いただきました各学会に感謝申し上げます。また、開催を支援していただきました企業の皆様にも心より感謝申し上げます。

今回は本学会初めてのWEBによる開催となりました。WEB開催への決断以降、本学会役員、プログラム委員の諸先生方の多大なるご指導を賜りながら、総会運営事務局と手探りで準備を進めてまいりました。新しいスタイルへ変更いたしましたが、参加登録者数は2,190名と多くのご参加をいただき、226の一般演題はどれも優れた研究成果でありました。遠隔から参加できるメリットを活かし、国外(韓国、米国、欧州)との合同シンポジウムや講演を行うことができました。

最終的な視聴回数(延べ)は、一般演題28,701回、講演等の企画演題は40,090回、企業展示3,905回、合計72,696回であり、非常に多く視聴していただくことができました。

本総会・学術集会のテーマとしました「感染症診療のベストプラクティスを目指してー新しいテクノロジーと既存の検査の融合ー」は、追求し続けていかなければならないと考えております。今回企画させていただきました「ベストプラクティス：日常検査」は、マニュアル等の作成の基礎資料として極めて重要な内容を多く含んでいます。その利用について学会と相談してまいりたいと考えております。

本総会・学術集会は終わりましたが、今回のWEB開催では問題点や課題が分かってきました。

ご講演・ご発表の資料の音声入力や事前のアップロード、座長の役割、オンライン開催における事前の接続テスト等、いままでにはなかった作業や開催前までに準備する必要が生じ、日常診療や検査で、たいへんお忙しい中、ご不便やお手数をおかけしました。何卒お許しくくださいますようお願い申し上げます。

これらは、まとめて今後へ引き継ぐ予定です。ITは今後も進歩し更に便利なものになり、学会のスタイルも変わっていくものと思います。

コロナ禍の中、皆様におかれましては、まだ厳しい状況が続くものと拝察いたします。COVID-19が収束から終息し、次回の総会・学術集会でお会いできることを心より祈念いたしております。

最後に、ご参加の皆様方、関係の各学会、企業の皆様方の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。

謹白